

白浜の水族館 猛毒を持つ ヒョウモンダコ 青い斑紋で威嚇

白浜町臨海の京都大学白浜水族館は、猛毒を持つ南方系の小型タコ「ヒョウモンダコ」の展示を始めた。興奮すると鮮やかな模様に変色する。体長10センチほど。10月30



怒ると黄色と青色の鮮やかな模様に変色するヒョウモンダコ
(白浜町臨海で)

日、同館職員が円月島近くの海底で採集したサンゴに偶然付いていた。白浜町やその周辺の暖かい

海城の磯では時々見られるタコだが、個体数は少なく、同館では年1回程度しか入ってこないという。普段は保護色で目立たないが、刺激されると青色のリング状斑紋がネオンサインのように浮かび上がり、相手を威嚇する。

唾液(だえき)は神経毒のテトロドトキシンを含む。青酸カリの1000倍以上の強さと言われ、含まれた場合は死に至ることもある。同館は「磯で見つけてもむやみに触ったり、刺激したりしないように」と話している。